



# 伊勢まちづくり株式会社 第9期（R4.9～R5.8）取組みのご紹介

新型コロナウイルス感染症の感染拡大も落ち着きを見せ始めた本年度は、徐々に日常生活や経済活動が活発化し、5月に同感染症が「5類感染症」に位置づけられると、市内のイベントや行事等も多く開催されるようになりました。しかし、一方でロシアによるウクライナ侵攻に端を発した物価高騰は収まることはなく、歴史的な円安も相まって市内事業所にも大きな影響を及ぼしています。そんな中、当社ではコロナ禍からの回復を図るアフターコロナ初年度として、売上の回復だけでなく、社会構造の変化への対応にも迫られた1年間となりました。

## 1. 伊勢市中心市街地活性化基本計画の推進

当社は、伊勢商工会議所、伊勢市、観光協会、民間事業者などで構成される「伊勢市中心市街地活性化協議会」の必須構成団体として、「伊勢市中心市街地活性化基本計画」の実現に向けて各事業を推進しています。

### （1）まちなか定住促進事業

市外からの移住・UIJ ターンを促進するため、伊勢市4課(企画調整課、商工労政課、住宅政策課、都市計画課)、及び伊勢商工会議所と「移住創業促進会議」を月1回の頻度で実施しました。

### （2）商店街等振興対策事業

商店街活性化のため、伊勢市との協定により実施する「商業まちづくり補助金」の窓口となり、しんみちイルミネーションプロムナードを企画した新道商店街、伊勢祭りの日にコロナ対応を講じた伊勢駅前商店街、高柳の夜店後にピアガーデンを企画した高柳商店街、八朔参宮時に恒例となった竹あかりの献灯を企画した外宮参道発展会の合計4件を支援しました。また「商店街PR支援事業」では、これまでの集合チラシによるイベント情報発信からFacebook、InstagramなどのSNS 広告に変更し、市内の4組織7イベントについて、主に20代～30代層に向けて発信を行いました。



昨期より開始した「商店街等歩行者通行量調査」では、365日24時間AIカメラを活用することで、イベントのみならずコロナ禍前後の歩行者を数的に比較する材料としてデータを蓄積することができました。通行量データはホームページで公開し、伊勢市中心市街地活性化基本計画や、今後の商店街活性化施策立案等の基礎資料にも活用しています。

### （3）商店街空き店舗対策支援事業

中心市街地商店街等の空き店舗率の増加に歯止めをかけ、新規店舗誘致による魅力向上により来街者の増加を図るため、当社は伊勢市との協定により実施する中心市街地商店街等空き店舗対策支援の「空き店舗促進事業補助金」窓口となっています。同事業では空き店舗への入店を希望する経営者に一定期間、改装費、家賃の一部を補助したほ

か、商店街の『空店舗はあるが、住居兼店舗の場合においては所有者が店舗として賃貸する意思を持っていない。または物件として他人に貸せる状態にない』などの課題を解決するため、令和5年4月には「貸せる空店舗の創出」に向けた補助金の制度改正を行い、空店舗の所有者が行った改装費の一部を補助しました。

支援団体は、伊勢銀座新道商店街振興組合1件、外宮参道発展会2件、高柳商店街振興組合3件、伊勢市駅前商店街振興組合1件、伊勢河崎本通り活性化会議1件の5団体8件(業種：飲食業4件、その他サービス業等3件、所有者1件)となりました。

### （4）皇學館大学地域連携事業

伊勢商工会議所より「産官学連携拠点管理運営業務事業」を受託し、皇學館大学 CLL 活動に以下の活動を登録し、学生が主体となる活動を支援しました。

- 地域活性化サポーターズ FIT：中心市街地におけるまちづくり活動の支援
- いせ移住 PR 支援プロジェクト：伊勢市のシティプロモーション、移住施策活動支援

※大学キャンパスを飛び出し、伊勢志摩定住自立圏を中心とする県内のフィールドで地域課題解決を体験的に学ぶ学習プログラム。

### （5）まちなか案内事業

#### ①お伊勢さん観光案内人

お伊勢さん観光案内人は、伊勢商工会議所主催の検定「お伊勢さん」上級に合格後に研修を受け、登録された者が案内人として全国から訪れる神宮参拝客を案内しています。「お伊勢さん観光案内人」事業では、会議所から事業の一部受託して全国に発信し、神宮を訪れる参拝客に確かな知識でその魅力を伝え、伊勢へのリピート率増加を促進することで地域経済の振興を図っています。近年は新型コロナウイルス感染症の蔓延から案内の停止等があり、大きく案内数を減らしていましたが、第9期は行動規制も緩和されて参拝客が徐々に戻り、前期比130%となる売上高394万円



に増加しました。しかし、同事業は両宮の案内を行っていたコロナ以前の実績には程遠く、完全回復には至っていません。同事業はピーク時に100名登録されていた案内人が、コロナ禍の3年間で70名に減少し、外宮案内など一部受付を制限していることや、コロナ禍を機に観光客の旅行形態が団体旅行から個人旅行に変遷するなどの社会的変化もあることから、早期の売上回復は難しくなっています。

#### ②おかげ宿

お伊勢さん観光案内人を地域宿泊施設の集客ツールの1つとして活用していただくことを目的として、伊勢市内を中心とした8宿泊施設の宿泊客を対象として毎日お伊勢さん観光案内人による内宮定時案内サービスを提供しています。コロナ禍に登録宿泊施設の減少がありましたが、安定して誘客できています。

※おかげ宿とは、登録施設から毎月定額の利用料を納めていただくことで、宿泊者を対象に無料内宮定時案内(10:00、11:30、13:30の3回/日、案内時間45分/回)を提供するサービスのことです。



### ③お伊勢さんまち歩きクーポン

当社が地域の観光プラットフォームとなって、主に観光客向けとして外宮・内宮周辺の魅力ある店舗を取りまとめた「お伊勢さんまち歩きクーポン」を企画し、1冊900円のクーポン5枚綴りで販売しています。当初、紙媒体であった同クーポンは、コロナ禍において観光庁の補助金を利用してデジタル化し、現在はスマホアプリによる「デジタル版お伊勢さんまち歩きクーポン」に一本化しています。デジタル版は紙版の店舗を主として38店舗が参加し、第9期は1,256冊を売上げています。



### (6) 地域資源を活用した商品開発事業

平成30年12月より、市内9社により外宮に着想を得た共通のロゴを用いた「伊勢外宮参宮みやげ」をプロデュースし、商品15商品を外宮参道「伊勢菊一」にて販売しています。また、オリジナルのホームページを開設することで同ブランドの趣旨・商品を紹介し、当社でもオリジナル商品の一筆箋、伊勢和紙ハガキを販売しています。



### (7) 河崎まちなみ魅力創出事業における調査事業支援業務

伊勢河崎本通り活性化会議による調査事業において、河崎の街なか再生におけるビジョン作成を行うための基礎調査、及び会議運営の支援業務を行いました。

## 2. DMO事業

DMO（観光地域づくり法人）とは、観光地域づくりの舵取り役となる組織の名称であり、地域の「稼ぐ力」を引き出すと共に「観光地経営」の視点に立った調整機関です。当社は、平成30年3月に全国で21番目、三重県下では初の日本版DMOとして正式に登録されました。

### 三重県実証事業

第9期では、三重県の『三重県持続可能な観光づくりに向けた観光MaaSによる観光地活性化モデル業務委託』事業を受託し、コロナ禍を機にデジタル化した「お伊勢さんまち歩きクーポン」とバス、鉄道、レンタカーなどの交通商品を連携させ、伊勢の観光振興に寄与する新商品造成に取り組みました。

当社は、令和5年4月に伊勢市観光協会が新たにDMOに登録されたことから、伊勢観光の舵取り役を観光協会に譲り、登録解除申請を行いました。今後は、協力団体として、市内のDMO2組織（伊勢市観光協会、伊勢志摩コンベンション機構）と連携し、伊勢の観光に寄与していきます。



## 3. その他事業

### 伊勢の水販売事業

伊勢市上下水道部が製造・販売する五十鈴川採水「伊勢の水」を1,254本販売しました。同事業は仕入れ時の搬送が非効率かつ利益率も低いことから、販売事業を見直して令和5年3月に在庫分の販売をもって終了としました。

3年間続いた新型コロナウイルス感染症の影響によって、社会構造は大きく変化しています。当社でも、これまで収入の主力としてきた「お伊勢さん観光案内人」事業において、観光客の利用形態が利益率の高かったバス旅行などの団体利用から、家族単位などの個人利用に変遷し、高齢者層のデジタル化への対応もあって収益の悪化を招いています。

当社は観光振興等各事業の推進によって収益を確保し、事業目的である「中心市街地の活性化を図り、ひいては地域経済の発展に貢献する」を目指してきましたが、コロナ禍を経た今、未だ安定した収益の確保には至っていません。今後は目的の実現のため、より中心市街地活性化事業に関わり、新たな収益の確保を目指して努力してまいります。

